

座光寺の花ごよみ

私たちは季節の変化をさまざまな形で知ります。一番の暖かな空を感じたり、初雪の白い世界で冬の訪れを知るのはその代表的なものです。季節ごとに咲く花でも季節を知ります。春にはサクラやスミシ、秋にはノギクやヒガンバナなどが咲きます。これらの自然現象は昔から私たちの生活にもさまざまな影響や感動を与え、和歌や詩に詠われてきました。

里のほとんどの人が農業を中心に自然と共に生きていた時代、暦が不完全だったとき、年ごとの季節の変化を知らせてくれる自然現象は農作業の目安でした。「〇〇のサクラが咲いたら苗床をつくる」などです。

座光寺では一年間を通じて花の咲く順序はどのようになっているのでしょうか？ 座光寺を中心に調べた花暦を紹介しましょう。

- 1994年に座光寺と高森町半牧地区の標高400～600mで観察した記録を中心にまとめたものです。
- 開花日は蕾の1割が開花した日としました。100個の蕾があれば、そのうちの10個が咲いた日としました。
- 開花日を旬別にわけ、さらに旬間の中の開花順に掲げました。同じ旬間の中では左から右、上段から下段の順に開花しました。
- ここに掲げた開花から、それぞれの種は何日間かにわたって咲き続けることになります。種ごとの開花期間はさまざまですが、春に咲く木本は短く、秋に咲く草本は比較的長いことが調査からわかりました。また越冬草には初冬から咲く種類もあり、それをいれると開花期間は大変に長くなりました。
- 一年間の観察を通して、いくつか気づいたことがあります。例えば、「春に開花する植物は木本では一斉に咲きますが、草本の多くは生育している場所の影響が大きく、個体差がかなりあること」などです。
- 早春に咲く草本植物の花は同種でも生育場所によって強く影響を受け、思いがけず早く咲くものから、遅いものまで個体差が大きいものです。
- 4月に咲く種類は同種類の植物が天竜川付近の下段で咲いたあと、開花前線が次第に上段に上っていきます。このとき一日に標高約20m昇ります（1994年の調査より）。この値は天竜川面と中央座光寺パーキングでは約10日の差となります。
- 夏から秋に開花する種類は、山の上が咲き、開花前線は次第に下がってることが知られています。例えば8月、9月に咲く種類は一日に標高13.4m開花前線が下がってきます。

1～2月						早春の花は同種でも生育場所によって、思いがけず早く咲くものから、遅いものまで個体差が大きいものです。
	ロウバイ	フクジュソウ	オオイヌノフグリ	ノボロギク	ハコベ	
3月上旬						
	コウバイ	コウメ	クロッカス	ナズナ		
3月中旬						
	ヤブツバキ	オウバイ	シバザクラ	フキ	ウメ	

3月下旬



トウダイグサ ヒメオドリコソウ レンギョウ ダンコウバイ シナノタンポポ

4月上旬



ハクモクレン トサミズキ タチツボスミレ コブシ ユキヤナギ エドヒガン スミレ

オランダミナナグサ ハナダイコン セイヨウタンポポ ハナニラ ブクリアナ ラッパスイセン ソメイヨシノ

ムラサキケマン ボケ オニノゲシ キランソウ ムスカリー

4月中旬



タチアネノフグリ アセビ シダレザクラ ミツバツツシ クサノオウ カラスノエンドウ オオバタネツツシ

オニタビラコ ケツツネノボタン キュウリグサ ヒトリシズカ ウグイスカズラ チューリップ モモ

クサボケ モクレン タビラコ オドリコソウ カイドウ スズメノエンドウ ドウダンツツシ

カキドウシ ミンバアケビ ライラック

4月下旬



ヤマブキ アケビ ハナズオウ ナシ ムラサキサギゴケ ヤエザクラ キンボウゲ

アオキ ハタザオ ヒオラ レンゲソウ ニガイチゴ ハナミズキ エンドウ

4月
下旬5月
中旬5月
中旬5月
下旬6月
中旬6月
中旬6月
下旬7月
中旬

